

国際環境経済学科		教授	童 適平	大学院の授業担当 無
教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	担当講義(金融論、比較金融制度論、中国経済論)に関して(前任校において)	2008年4月-2013年3月	全てPPTを作成して、行うことにしていた。そして、講義の内容に合わせて、AVメディアなどを使用して授業の効果向上を図った。授業中の質問に対する答えの状況を成績評価に反映することを事前に周知したことにより、授業の効果が上がった。	
2	担当の基礎教養演習に関して(前任校において)	2008年4月-2013年3月	紙質資料だけでなく、インターネット上で配布された外務省、経済産業省とJETROなどの資料と動画を利用して日本経済の国際化をテーマに、より効果的に学生に日本の現状と将来を認識させた。最後に学生たちを、経済国際化の賛成派と反対派の2組に分けて、弁論会を实行了。このような試みを通じて勉学のインセンティブを与えるように工夫している。 また、成績評価を、レポートではなく、授業中の論点の整理と弁論会の参加度合いを基準に行った。これも学生の勉学意欲の向上だけでなく、社会問題の関心度と自己アピール能力の向上につながった。	
3	担当のプロゼミに関して(前任校において)	2008年4月-2013年3月	日本経済の国際化と関連して、ブレトンウッズ体制とその後の国際金融体制の問題点を勉強し、最後に小論文を書かせ、社会科学分野での問題の捉え方と文章を書く能力の育成に努めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)				
年月日		活動内容		
2005年5月～現在		日本金融学会会員		
2005年6月～現在		日本証券経済学会会員		
2007年9月26日		国際経済学会関西支部にて講演「WTO加盟後の中国経済の変化と金融改革」		
2007年6月9日		第67回証券経済学会にて報告「アジア主要金融市場比較—国際金融センターになる条件—」		
2008年10月～現在		日本国際経済学会会員		
2010年6月6日		日本証券経済学会報告討論者		
その他				
日本郵政公社四国支社貯金事業部郵便貯金に関する委託研究: 「アメリカにおける銀行持ち株会社の組織有効性とわが国の対応策」(2006年度)				
松山大学総合研究所地域研究プロジェクト共同研究: 「知識経済への転換とハイテク型開発政策に関する日中比較研究」(2007～2009年度)				
経団連21世紀政策研究所共同研究プロジェクト: 『国際金融危機後の中国経済-内需拡大と構造調整に向けて-』座長:渡辺利夫(拓殖大学学長)(2009年度)				
科学研究費助成事業: 『金融機関の収益構造は変化したのか?-米系大手金融機関の競争力の源泉を探る-』共同研究者(2012年度～2014年度) 学術研究助成基金助成金(基盤研究 ©)課題番号24530513研究代表松山大学掛下達郎)				